



2026年5月14日

各 位

会 社 名 株式会社 安永
代表者名 代表取締役社長 安永 暁俊
(コード：7271、東証スタンダード)
問合せ先 管理本部長 中川 聖志
(TEL. 0595-24-2122)

第8次中期経営計画について（2026年度～2028年度）

～『グローバルニッチNo.1』の柱を太くする～

当社グループは、このたび2026年度から2028年度までの3年間の事業戦略や数値目標を定めた第8次中期経営計画を策定しましたので、お知らせいたします。

1. 基本方針

グループ企業価値の向上に向けて、お客様に信頼される技術・製品・サービスを創造し、高い付加価値を提供し続ける企業グループを目指して、『『グローバルニッチ No.1』の柱を太くする』というスローガンのもと、以下の3つの項目を重点施策として取り組んでまいります。

(1) 経営基盤の強化

- ・挑戦的な企業風土のさらなる浸透
- ・個人の成長と組織の成長を両立する人的資本経営
- ・愛される会社に向けたブランディング

(2) 「グローバルニッチ No.1」製品のさらなる拡大と充実

- ・国内外でのコンロッドシェア拡大
- ・北米及び、日本を含むアジア市場の事業拡大（部品・機械装置・環境機器）

(3) 安永ならではの価値の提供による新事業の創造

- ・微細形状技術を「微匠」と命名。その用途拡大による更なる新事業の創造
- ・ペーパーチャンバー用ウィックシートの受注拡大

2. 2028年度（2029年3月期）業績目標

(1) 売上高	45,000 百万円
(2) 営業利益	4,100 百万円
(3) ROE	15%
(4) 自己資本比率	40%

3. 株主還元 配当方針の見直し

株主還元の充実と経営基盤の安定を両立させるため、中長期的な視点から連結配当性向30%程度を目標とした還元を基本方針といたします。

単年度の利益変動に過度に左右されず、投資計画や財務状況を総合的に勘案した平準的な配当を継続的に実施することを目指します。

4. その他

詳細につきましては、添付資料「2026年3月期決算説明資料および中期経営計画」をご参照ください。

※本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する主旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上



Yasunaga

株式会社 安永

証券コード：7271

2026年5月14日

2026年3月期決算説明会資料 および第8次中期経営計画



- 1 2026年3月期決算概要
- 2 2027年3月期業績予想
- 3 第7次中期経営計画の振り返り
- 4 第8次中期経営計画
- 5 Appendix

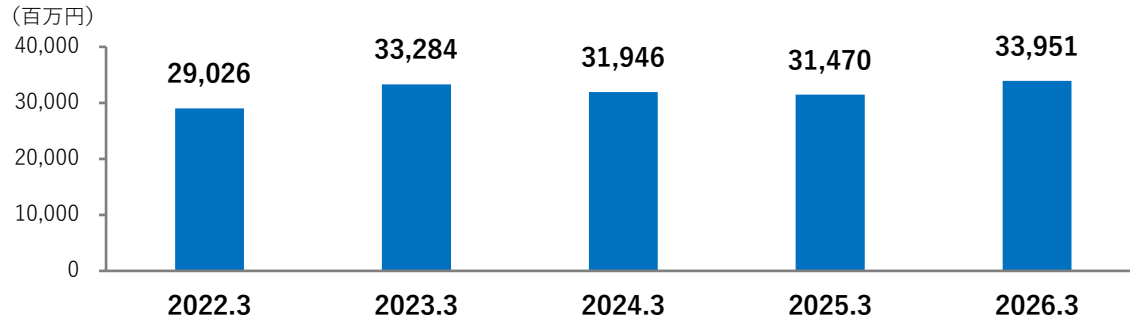


2026年3月期決算概要

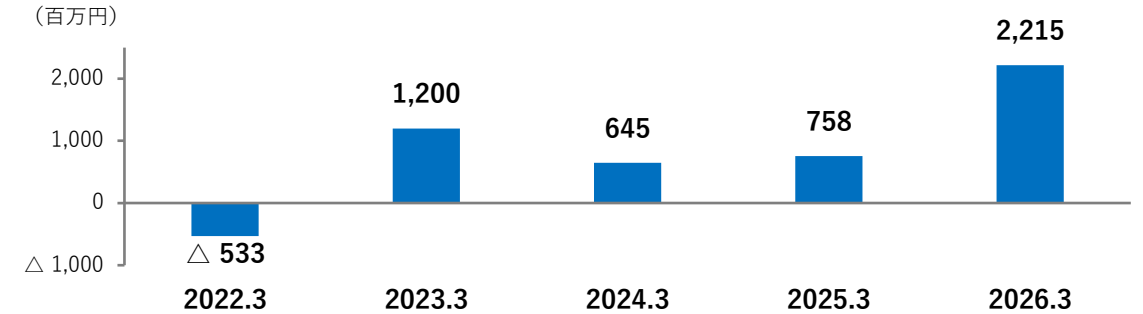
決算ハイライト

- エンジン部品：①国内新規ラインの本格稼働や北米市場の需要が継続していることに加え、海外子会社での販売が増加
②新製品のスマートフォン向けベイパーチャンバー用ウィックシートの本格量産開始
- 機械装置：①工作機械の販売が大幅に増加したことに加えて、改造・メンテナンスサービスの強化により売上高が増加
②利益面でも採算性の改善につとめ、黒字を確保
- 環境機器：①エアーポンプは国内向け及び北米向けの販売が回復するなど、海外向け販売が好調に推移
②ディスプレイは新築マンション向けの販売が増加

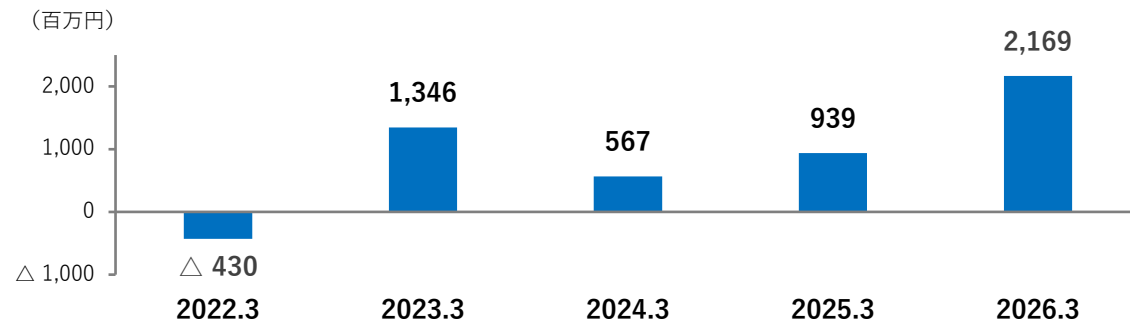
売上高



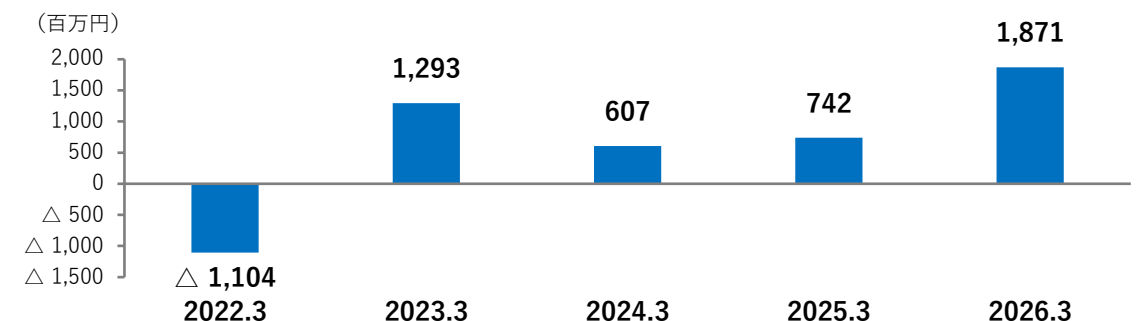
営業利益



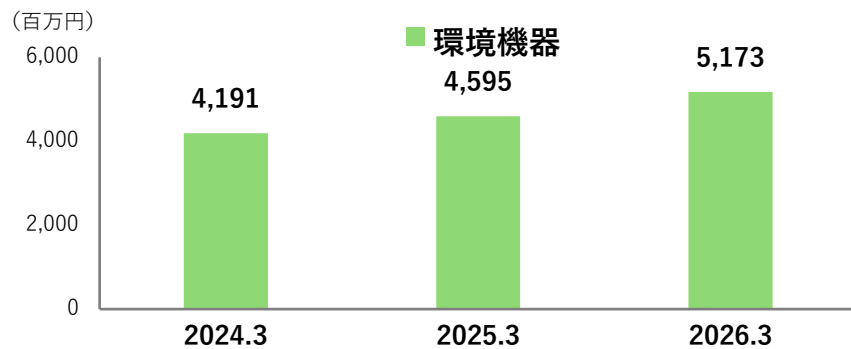
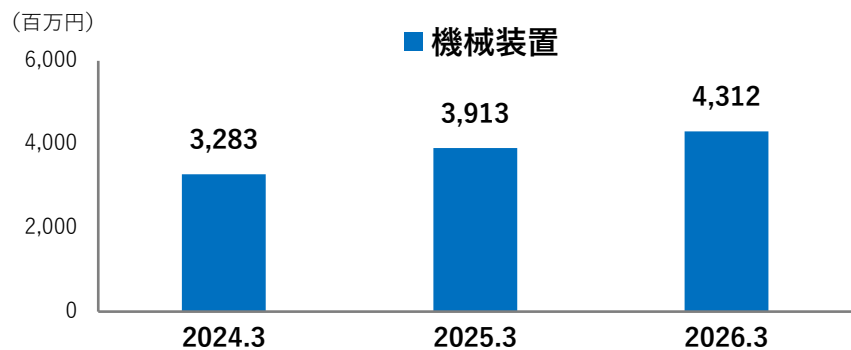
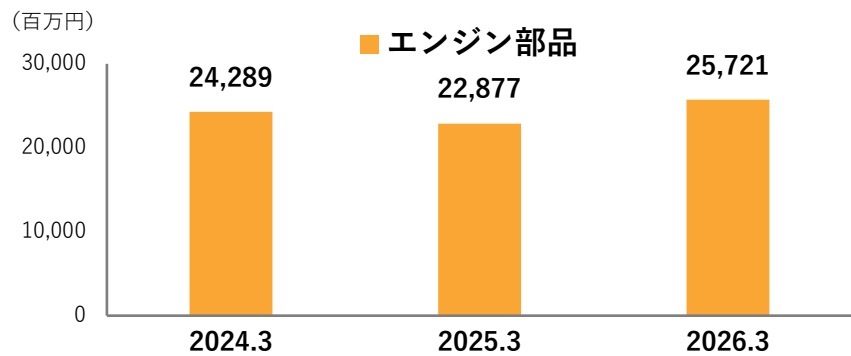
経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



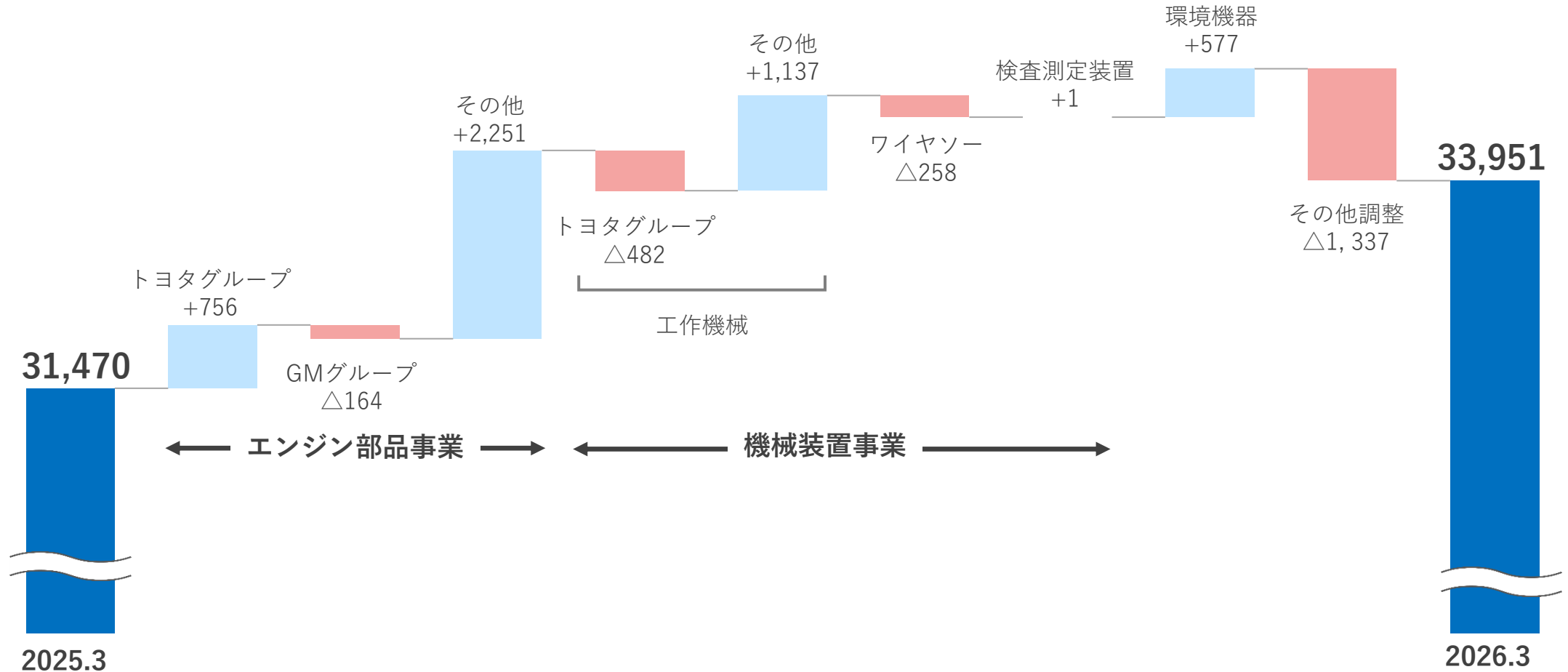
セグメント別売上高・営業利益



	売上高		増減	営業利益		増減
	2025年 3月期	2026年 3月期		2025年 3月期	2026年 3月期	
エンジン部品	22,877	25,721	2,843	508	1,877	1,368
機械装置 (うち内部売上高)	3,913 (205)	4,312 (1,520)	398 (1,314)	△1	102	103
環境機器	4,595	5,173	577	212	499	286
その他の事業 (うち内部売上高)	763 (475)	730 (465)	△33 (△10)	22	47	25
調整額 (セグメント間取引消去)	△680	△1,985	△1,304	15	△311	△327
合計	31,470	33,951	2,481	758	2,215	1,457

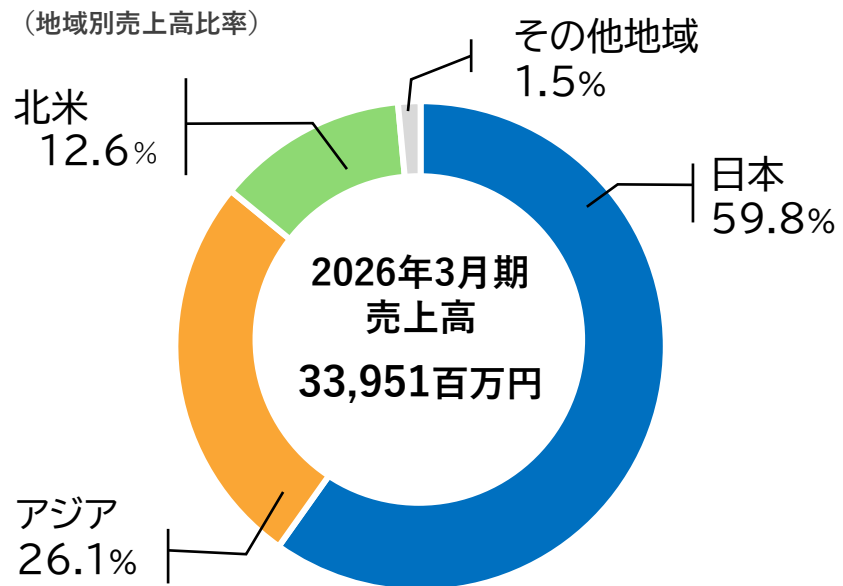
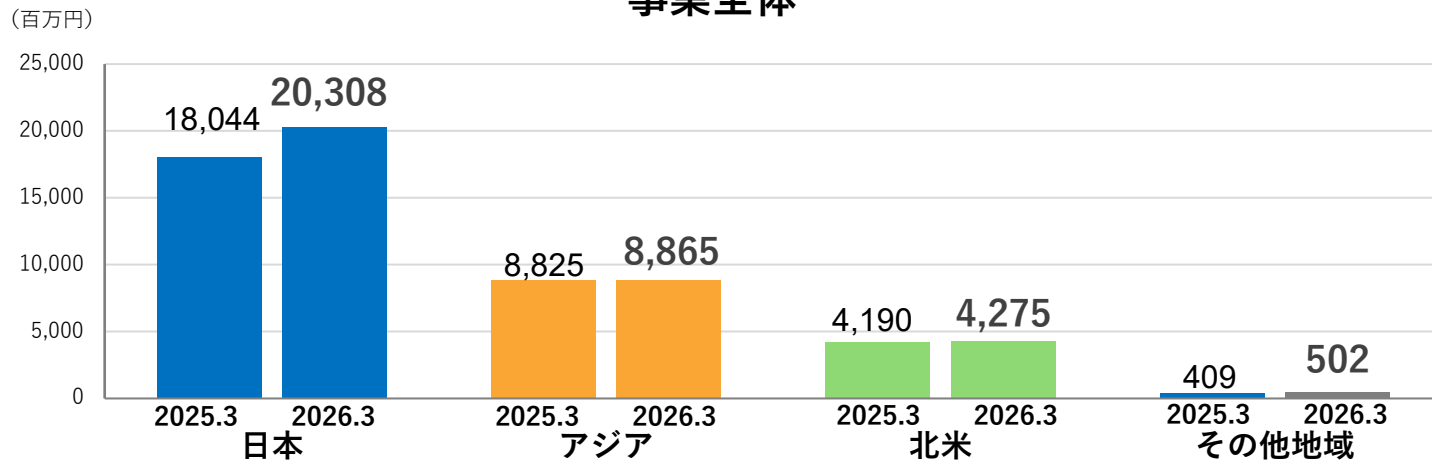
売上高増減要因

(百万円)



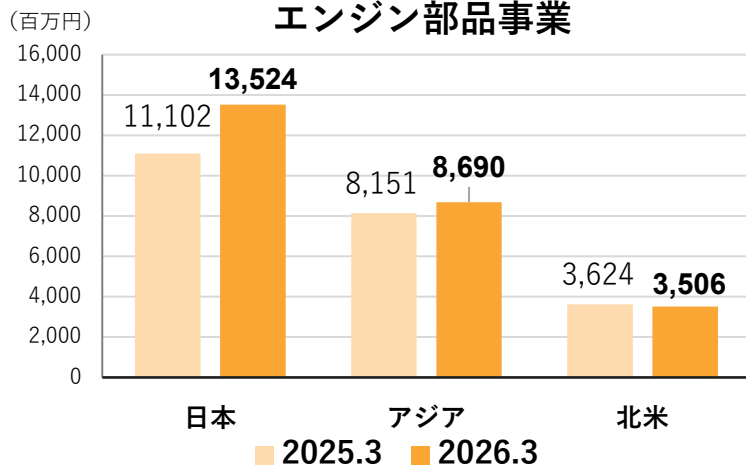
地域別売上高

事業全体

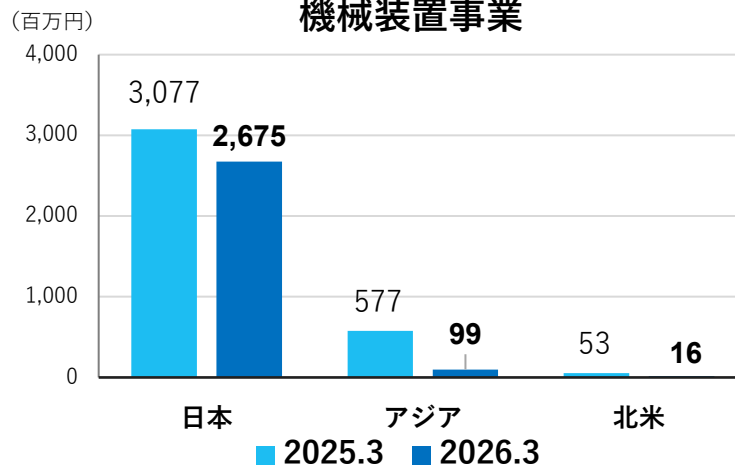


(セグメント別)

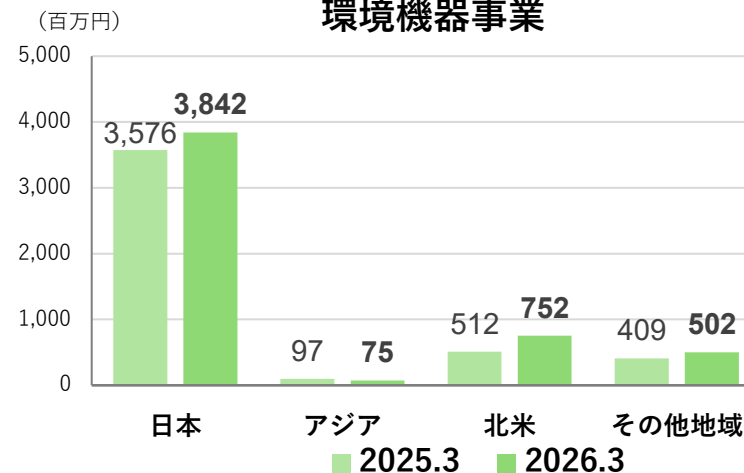
エンジン部品事業



機械装置事業



環境機器事業



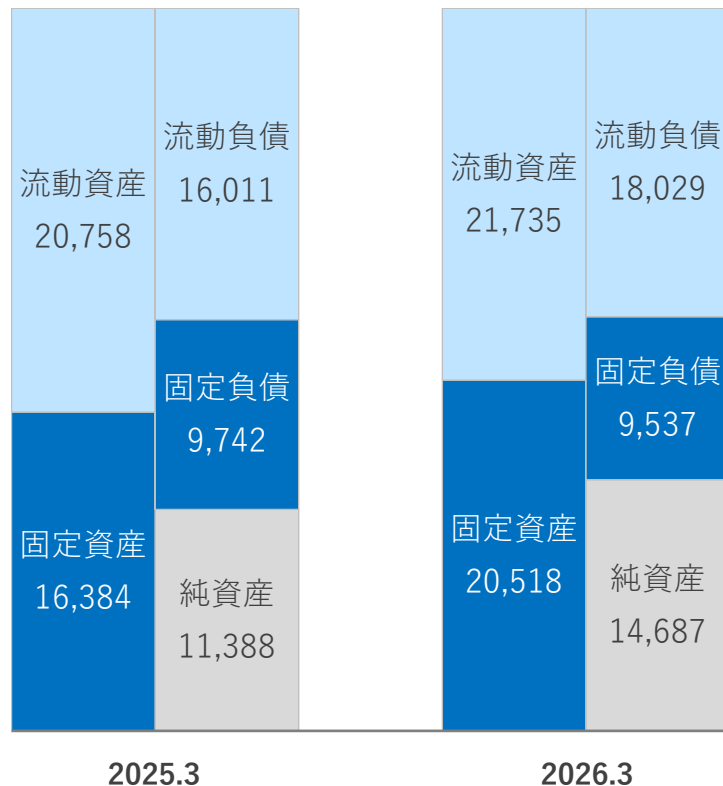
貸借対照表



(百万円)

貸借対照表の状況

(百万円)



	2025年3月期	2026年3月期	増減額	主たる増減
流動資産	20,758	21,735	977	未収消費税等の増加による その他864
固定資産	16,384	20,518	4,134	有形固定資産2,865 退職給付に係る資産741
資産合計	37,142	42,254	5,112	
流動負債	16,011	18,029	2,018	短期借入金1,600 1年以内返済予定の長期 借入金337
固定負債	9,742	9,537	△204	リース債務△116 繰延税金負債△64
純資産	11,388	14,687	3,298	利益剰余金1,717 為替換算調整勘定845
負債・純資産合計	37,142	42,254	5,112	
有利子負債	18,628	20,532	1,904	
自己資本比率	30.7%	34.8%	4.1%	
DEレシオ	1.63倍	1.40倍	△0.23倍	
1株当たり純資産	1,104.92円	1,425.47円	320.55円	

損益計算書

(百万円)

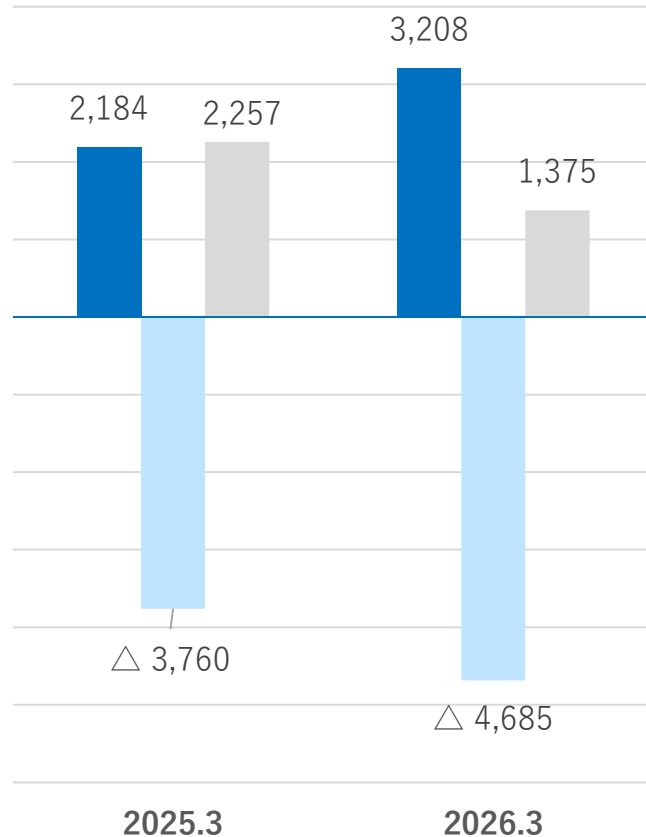
	2025年3月期		2026年3月期		増減率	増減額
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	31,470	100.0%	33,951	100.0%	7.9%	2,481
売上原価	26,777	85.1%	27,605	81.3%	3.1%	827
販管費	3,934	12.5%	4,130	12.2%	5.0%	196
営業利益	758	2.4%	2,215	6.5%	192.3%	1,457
営業外収益	371	1.2%	214	0.6%	△42.2%	△156
内、為替差益	157	0.5%	112	0.3%	△28.5%	△44
営業外費用	190	0.6%	260	0.8%	37.0%	70
内、支払利息	161	0.5%	230	0.7%	42.2%	68
経常利益	939	3.0%	2,169	6.4%	131.0%	1,230
税引前当期純利益	1,030	3.3%	1,844	5.4%	79.1%	814
法人税等合計	287	0.9%	△26	△0.1%	△109.4%	△314
内、法人税等調整額	66	0.2%	△445	△1.3%	△776.2%	△512
親会社株主に帰属する 当期純利益	742	2.4%	1,871	5.5%	152.2%	1,129

キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー

(百万円)

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- 財務活動によるキャッシュ・フロー



(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	2,184	3,208	1,024
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,760	△4,685	△925
財務活動による キャッシュ・フロー	2,257	1,375	△882
現金及び現金同等物の 増減額	840	△265	△1,105
現金及び現金同等物の 期末残高	7,068	6,802	△265

主たる要因

- 営業活動によるキャッシュ・フロー：税金等調整前当期純利益1,844、減価償却費1,789
- 投資活動によるキャッシュ・フロー：有形固定資産の取得による支出△4,626
- 財務活動によるキャッシュ・フロー：長期借入による収入3,250、短期借入金の純増減額1,600
長期借入金の返済△2,944



2027年3月期業績予想

2027年3月期 業績予想



(百万円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減率
売上高	33,951	37,000	9.0%
営業利益	2,215	2,000	△9.7%
営業利益率	6.5%	5.4%	△1.1%
経常利益	2,169	1,800	△17.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,871	1,300	△30.5%

セグメント別売上高・営業利益予想

	売上高			営業利益		
	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減率	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減率
部品	25,721	26,800	4.2%	1,877	1,400	△25.4%
機械装置	4,312	6,000	39.1%	102	300	193.0%
環境機器	5,173	5,200	0.5%	499	300	△40.0%
その他・調整	△1,255	△1,000	—	△264	0	—
合計	33,951	37,000	9.0%	2,215	2,000	△9.7%

※2027年3月期より、セグメント名称を「エンジン部品」は「部品」へと変更しました。

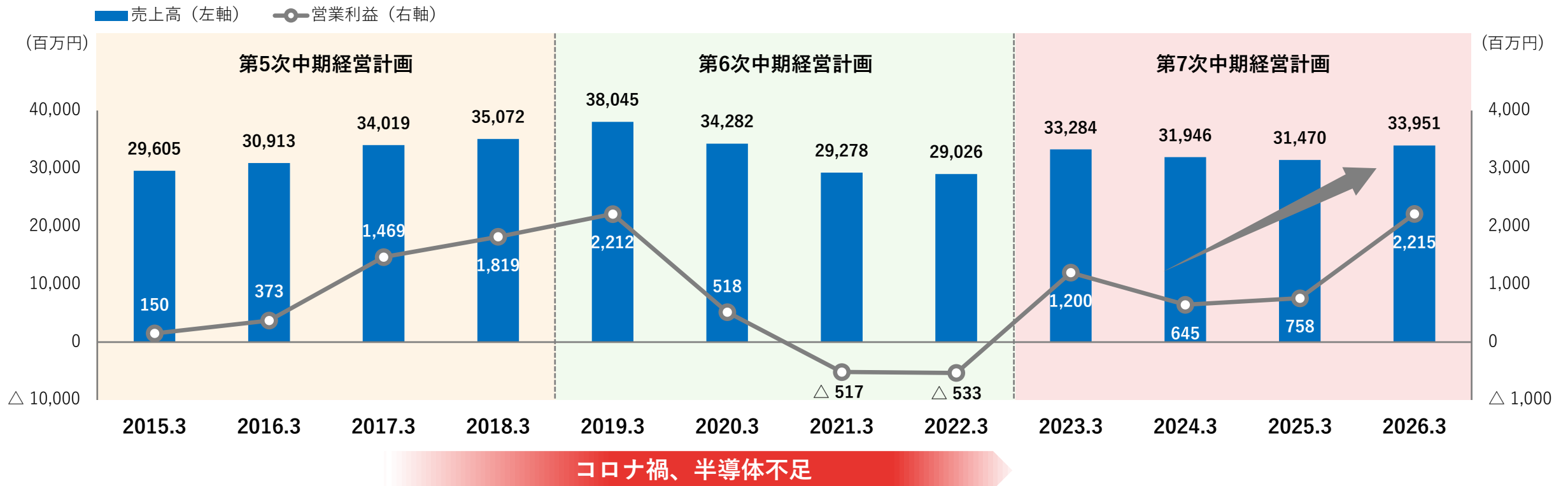


第7次中期経営計画の振り返り

中計の振り返り

- コロナ禍、半導体不足の影響を受け厳しい状況でスタートしたものの、中計最終年に大幅な増収増益を達成
- 主力のエンジン部品事業が成長ドライバーとなり、自動車メーカーの外注化需要の取り込みに加え、建機、農機、産機、マリン・レジャー用の領域も拡大
- 加えて、2026年3月期に新製品であるスマートフォン向けウィックシートの量産を開始したことも営業利益増加に寄与

売上高と営業利益の推移



第7次中計の総括（定性面）

- 「グローバルニッチNo.1」の柱を増やす成果を出した
- 主力のエンジン部品事業において生産能力を増強して需要増加に対応、環境機器事業も堅調に推移
- 新しいことにチャレンジするDNAが着実に浸透し、ベイパーチャンバー用ウィックシートや電極活性化装置など、今後の成長が期待できる複数の新事業の芽が出始めた

スローガン

「グローバルニッチNo.1」の柱を増やす

<p>【全社】 経営基盤の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挑戦的な企業風土：職場環境を改善し新事業創造に取り組むなど、挑戦する価値観が着実に浸透 ○ 生産性向上：全社的な生産性の向上に向け、基幹システムの切り替えに着手 ○ CO₂排出量削減：工場での太陽光発電設備の設置やエネルギーの効率的な使用に取り組み、2014年3月期比で約57%のCO₂排出量削減を実現、電力購入費用も削減
<p>【既存事業】 「グローバルニッチNo.1」製品のさらなる拡大と充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ エンジン部品事業：国内およびメキシコを中心に生産能力を増強し需要増加に対応 ○ 機械装置事業：高付加価値製品へのリソース重点配分と保守サービスによるストック収益獲得に取り組み黒字に転換 ○ 環境事業：エアーポンプ、ディスパーザーの販売が好調に推移
<p>【新事業】 安永ならではの価値の提供による新事業の創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ウィック：スマートフォンの放熱部品であるベイパーチャンバー用ウィックシートの量産開始 ○ 電極活性化装置：リチウムイオン電池の長寿命化を図る電極活性化装置の販売を開始 ○ 新事業創造：上記以外にも第8次中計期間中に事業化が期待できる案件を創出

第7次中計の総括（定量面）

- エンジン部品事業および環境機器事業が堅調に推移し連結売上高が未達ながら、営業利益の当初目標（2023年5月公表）を達成
- 営業利益率はコロナ禍前を上回る水準に向上
- 自己資本比率、ROE、配当共に当初目標を達成

(百万円)	2023.3 実績	2024.3 実績	2025.3 実績	2026.3 実績	2026.3 当初目標
売上高	33,284	31,946	31,470	33,951	36,500
エンジン部品	23,063	24,289	22,877	達成 25,721	25,500
機械装置	6,179	3,283	3,913	4,312	5,300
環境機器	4,211	4,191	4,595	達成 5,173	5,000
営業利益 (営業利益率)	1,200 (3.6%)	645 (2.0%)	758 (2.4%)	達成 2,215 (6.5%)	1,900 (5.2%)
自己資本比率 (%)	30.2%	31.1%	30.7%	達成 34.8%	34%
ROE (%)	14.1%	5.8%	6.7%	達成 14.4%	10%
配当	167	139	133	達成 236	179
1株当たり配当金 (円)	14.00	12.00	13.00	達成 23.00	15.00



第8次中期経営計画

第8次中計のスタート

技術で世の中を驚かせる会社へ

企業を取り巻く環境が激変する中、当社は既存技術の進化と新技術の探索によって、これからも力強く成長していきます。自動車業界においてマルチパスウェイが現実解として重みを増す中、おかげさまで、既存事業の大きな柱であるコンロッド加工ビジネスで世界シェアを更に伸ばすことができました。また、新技術の探索によって創りだした微細形状技術を「微匠」と名付けました。これから幅広い業界で安永の微匠技術が使われて、社会文化の豊かさに貢献することを目指します。

ものづくり企業として技術を高めることで、それらが自動車、産業機械、農業機械、レジャービークル、半導体、電子部品、携帯電話、住宅設備等の幅広い業界で、ますます使用されることを目指します。伊賀忍者のごとく隠密に、いつの間にか生活の中に入り込んでいて、社会の豊かさに貢献している。いつか人々が気づいて結果として驚かれる。そんな想いを込めて「技術で世の中を驚かせる会社へ」を継続します。これからも世の中に必要とされる会社でありたいものです。

今後とも変わらぬご支援とご指導をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 安永 暁俊



当社を取り巻く環境と課題対処

外部要因

- 自動車のBEV比率の鈍化とハイブリッド増加
- 国内市場の成熟化
- 長期的な視点でのBEV比率の漸増
- デジタル化の加速
- 資源・エネルギーを始めとした物価の高騰
- 為替変動、金利上昇

課題対処

- 部品事業のさらなる拡大と需要増への対応
- 海外市場の成長の取り込み
- ハイブリッドおよびBEV向け製品の拡大
- 微細形状技術による熱マネジメントの提案
- DX推進・生成AI対応による生産性の改善
- 財務バランス適正化

第8次中期経営計画スローガン

「グローバルニッチNo.1」の柱を太くする

既存事業

「グローバルニッチNo.1」製品のさらなる拡大と充実

- 国内外でのコンロッドシェア拡大
- 北米及び、日本を含むアジア市場の事業拡大
(部品・機械装置・環境機器)

新事業

安永ならではの価値の提供による新事業の創造

- ベイパーチャンバー用ウィックシートの受注拡大
- 微匠技術（微細形状技術）の用途拡大による更なる新事業の創造

全社

経営基盤の強化

- 挑戦的な企業風土のさらなる浸透
- 個人の成長と組織の成長を両立する人的資本経営
- 愛される会社に向けたブランディング

第8次中計 業績目標

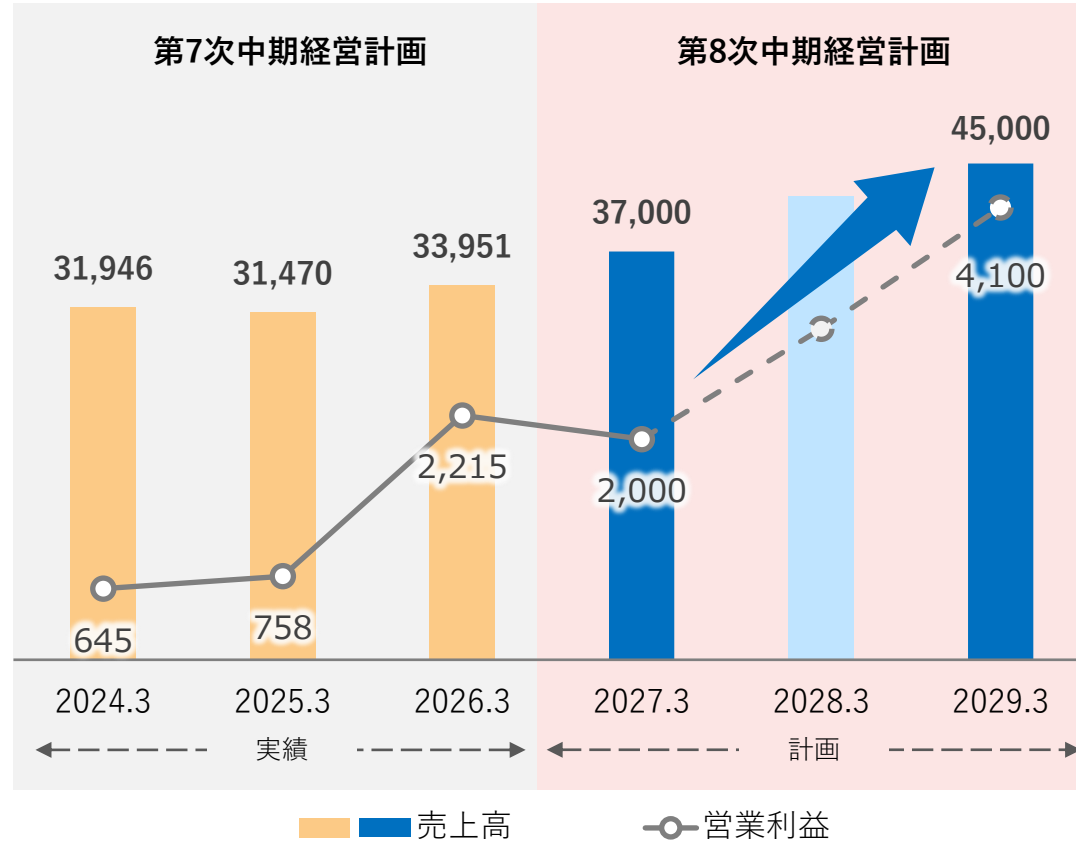
第7次中期経営計画の勢いをさらに加速させ、2029年3月期 売上高450億円、営業利益41億円を目指す

業績目標

(百万円)	2026.3 実績	2029.3 目標	増減
売上高	33,951	45,000	+32.5%
営業利益	2,215	4,100	+85.2%
ROE	14.4%	15.0%	+0.6%
海外売上比率	40.2%	47.0%	+6.8%
自己資本比率	34.8%	40.0%	+5.2%

売上高と営業利益の推移

(百万円)



業績拡大のドライバー

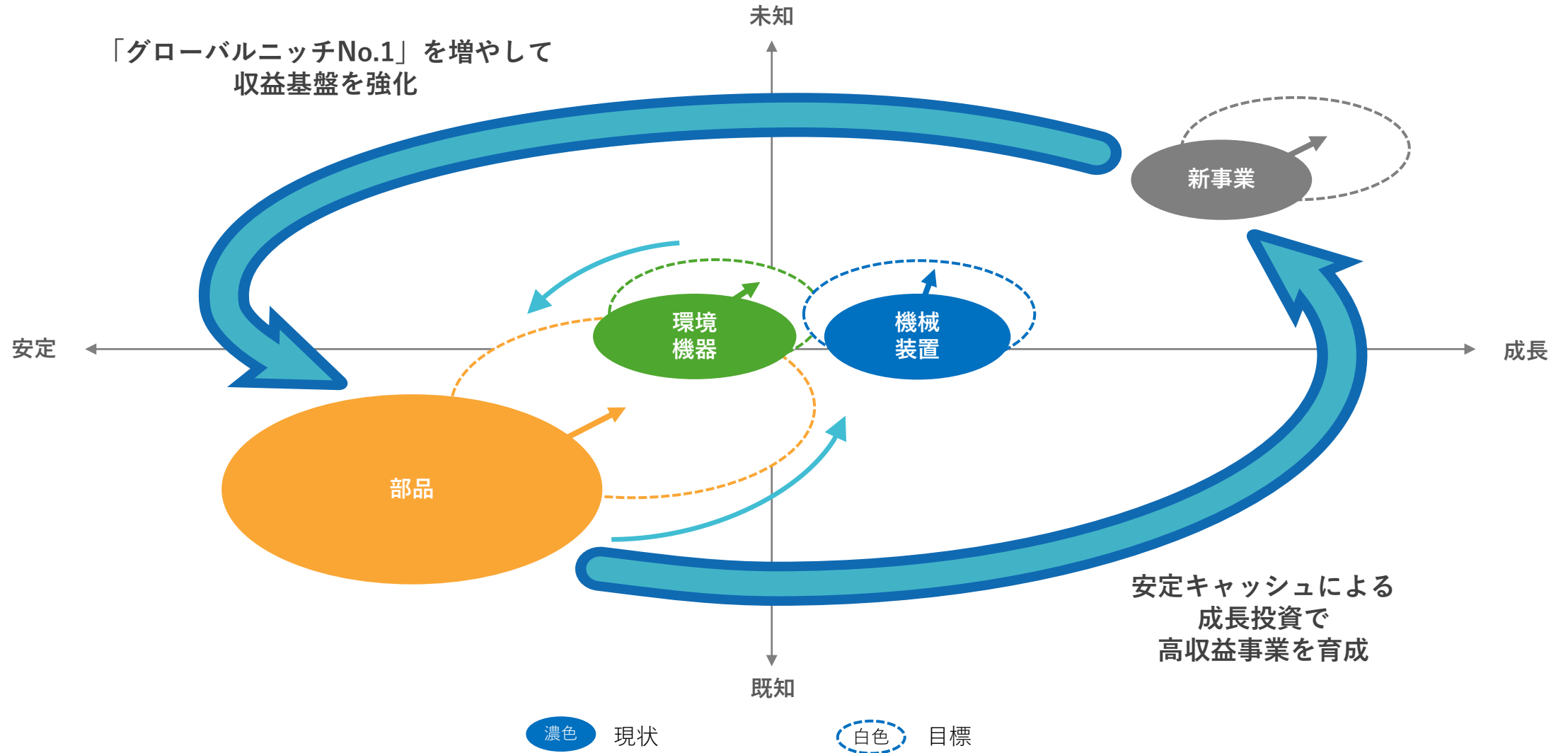
自動車エンジン部品
(国内・海外)

産業用エンジン部品
(国内・海外)

ベイパーチャンバー用
ウィックシート

事業ポートフォリオ

経営資源を有効に使い、安定収益源である既存事業と成長性ある新事業からなるポートフォリオ構築を目指す



重点施策① 「グローバルニッチNo.1」 製品のさらなる拡大と充実 (1)

部品事業

目標

コンロッド外注市場の
No.1プレイヤー

コンロッド全世界シェア目標

2026年3月期
実績

5%



2029年3月期
目標

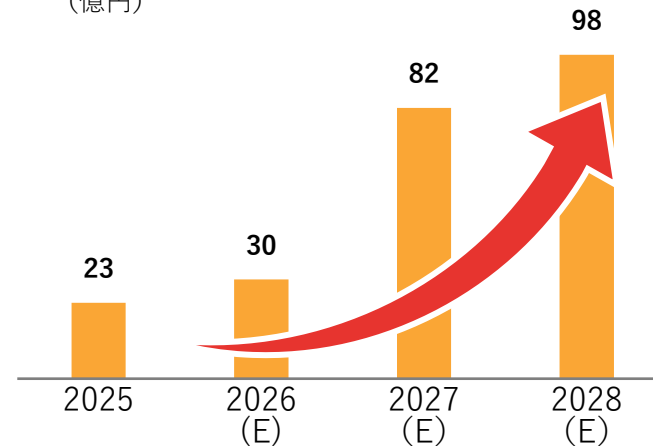
7%



市場環境

- グローバルでの内燃エンジンの再評価に伴う内燃機関搭載車比率の高まり
- 国内外のメーカーのコンロッド外注ニーズの増加
- 北米における大型ディーゼル車両の新排ガス規制によるコンロッドの需要増

安永メキシコ 売上高計画 (億円)



※MXN/JPY = 7.81円、USD/MXN = 19.16で想定

事業戦略

北米市場、アジア市場の拡大と生産能力増強

国内

- 自動車メーカーの外注化需要への対応によるさらなる売上・シェア拡大
- 建機、農機、産機、マリン・レジャー用エンジン部品の受注拡大

海外

- 日系・米系自動車メーカー等の現地調達・現地生産の需要取り込み
- 北米における大型ディーゼル車両の新排ガス規制への対応

重点施策① 「グローバルニッチNo.1」 製品のさらなる拡大と充実 (2)

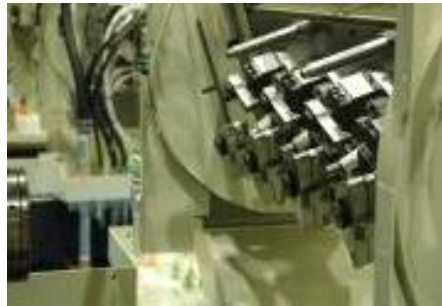
機械装置事業

市場環境

- 自動車メーカーの増産に伴う工作機械の需要増加
- 既存設備の改造・メンテナンスニーズの増加

事業戦略

- **エンジン部品向け工作機械**：自動車メーカーの増産に対応した工作機械の製造及び拡販
- 改造・メンテナンスサービスの強化によるストック収益確保
- **ワイヤソー、検査装置**：成長が期待できる電子部品・半導体産業への取り組み強化、各要素技術の更なる製品力の向上



環境機器事業

市場環境

- 住宅着工戸数横ばい。交換市場は安定的な需要継続
- 北米市場、欧州市場とも交換市場は安定的な需要継続

事業戦略

国内

- エアーポンプ・ディスポーザシステムの利益強化とシェア拡大
- 材料費高騰や為替変動の影響を受けにくい体制づくり
- DX活用による業務の効率改善と高付加価値化

海外

- 海外のグループ会社を活かした海外直販体制の再構築と販売エリアの拡大



重点施策② 安永ならではの価値の提供による新事業の創造

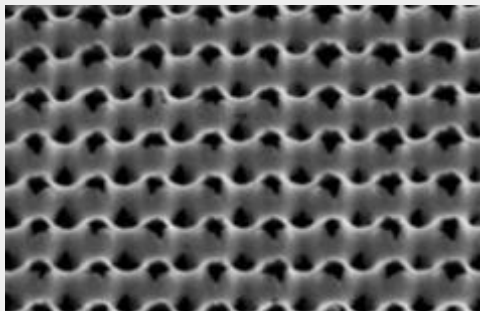
安永微匠技術 Yasunaga BMF[※] Technology

※Billions of Mt. Fuji

※Benefit of Multiple Flow

- 今回、**微細技術を微匠と名付けた**。新しく微匠技術の市場群を創出し、No.1プレイヤーとなる
- 0.3m × 6 mのシートに富士山型が10億孔
- シート内で機能を生み出し、幅広い顧客に多様な便益をもたらすことが可能

安永微匠シート



1mm²のスペースに最大625ptの孔を開けることが可能

今後の採用拡大を期待する分野

モバイル機器向けウィックシート

半導体工程向け機能シート

透明吸音フィルム

固液遮断・気体透過シート

独創的な微細形状金型を用いた微細形状加工技術の強み

- 独自の微細金型を使用することで、孔の密度、角度、深さなどを顧客のニーズにそって開けることが可能

レーザー加工よりも

高速

機械加工よりも

微細

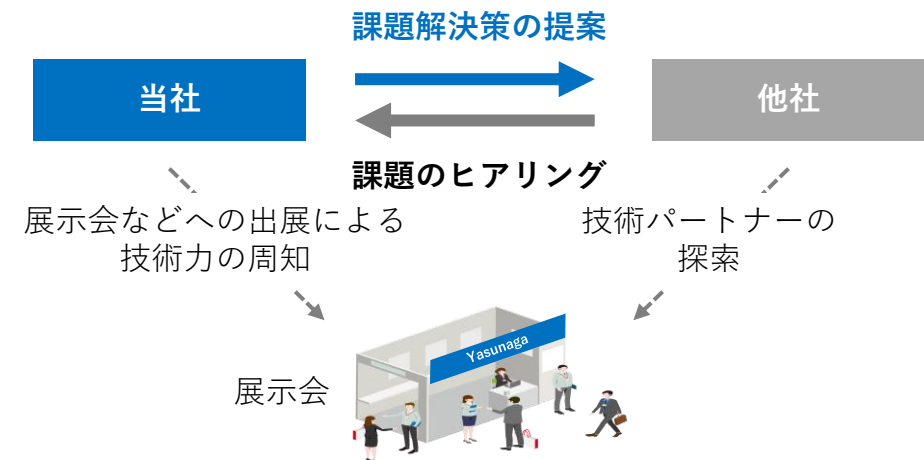
化学薬品を使用しないため

環境負荷が低い

当社の微細形状加工技術による他社の課題解決

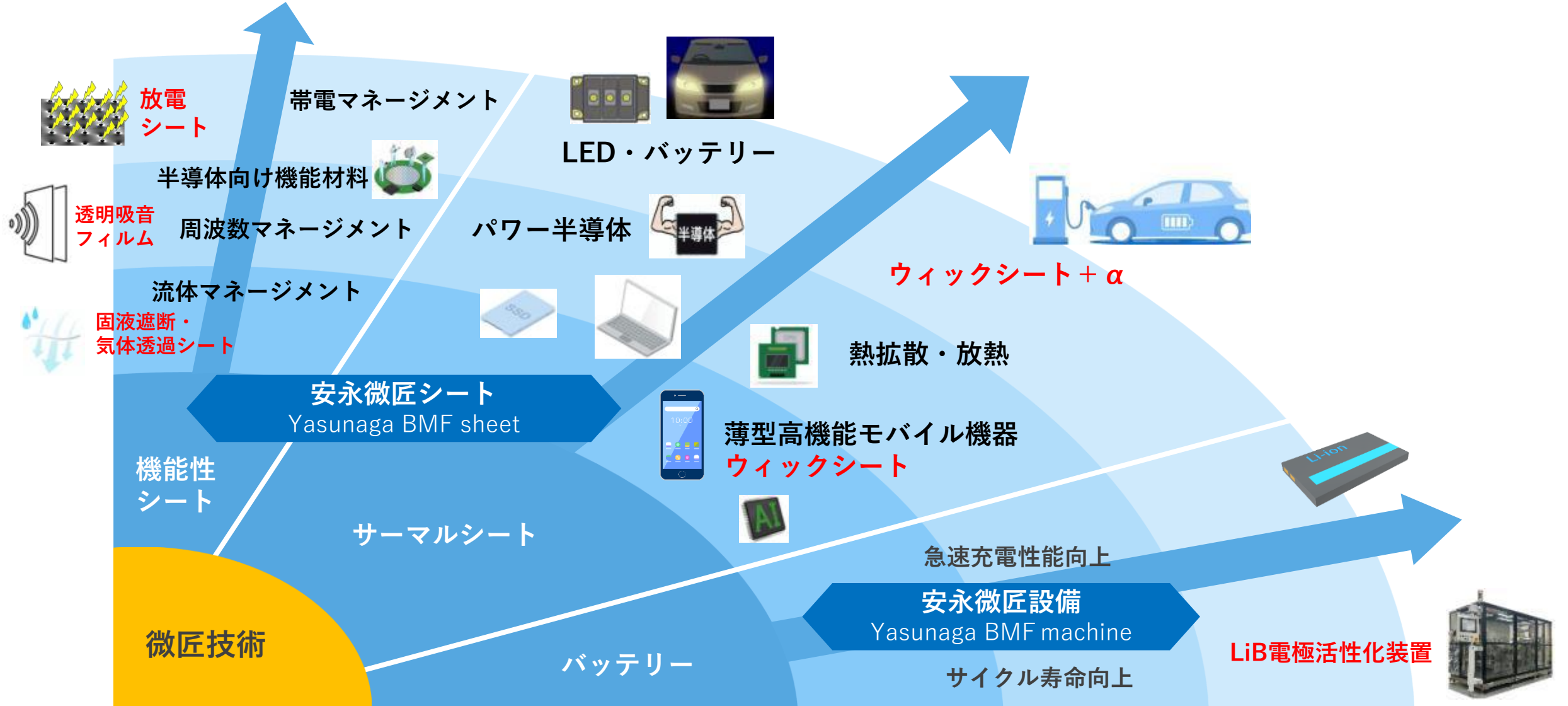
展示会などへの出展による当社の技術力の高さの周知

- 展示会などで他社との接点を増やし、課題解決策を提案する



重点施策② 安永ならではの価値の提供による新事業の創造

熱マネジメント関連、二次電池関連両製品の売上拡大、新たな市場への価値提供とビジネスモデル確立



重点施策③ 個人の成長と組織の成長を両立する人的資本経営

ブランディング施策で優秀な人材定着と人材採用を促進し、人的資本の強化を図る



成長とワクワクを感じる職場づくり

働きやすい環境づくり

- オフィス・工場の快適空間推進
- 多様な働き方の推進
- 新システム構築などによる業務効率化で生産性の向上を実現
- 健康経営の推進で、心と体の健康づくり
- 「みんなのワクワク感」の醸成仕掛け

人と組織の成長促進

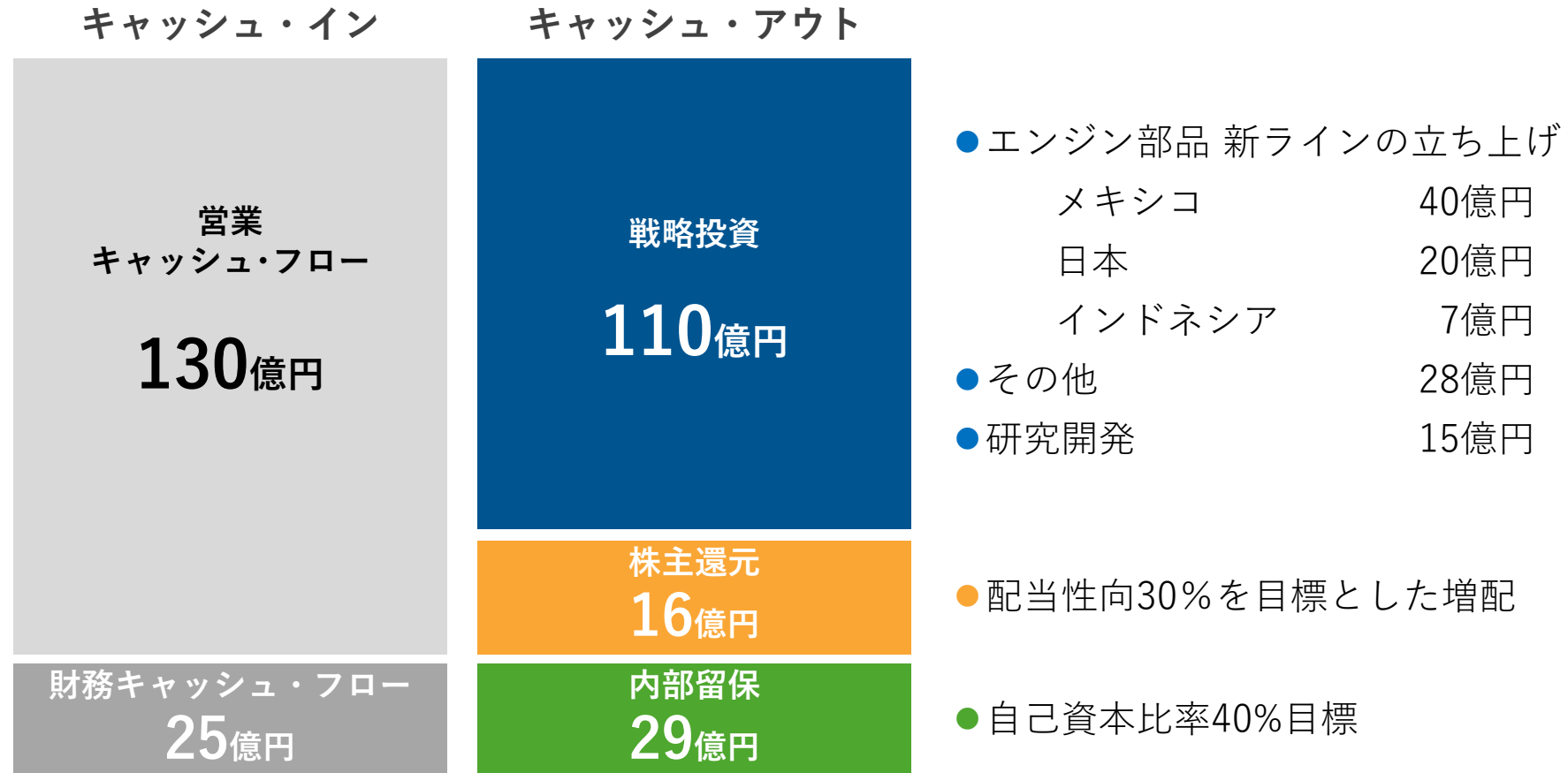
- 若手人材の採用と登用による組織活性化
- 若手マネージャー育成と人材・チャレンジ・素養向上
- 海外駐在員の待遇改善
- シニア活躍、障がい者活躍、柔軟な働き方の推進

愛される会社に向けたブランディング

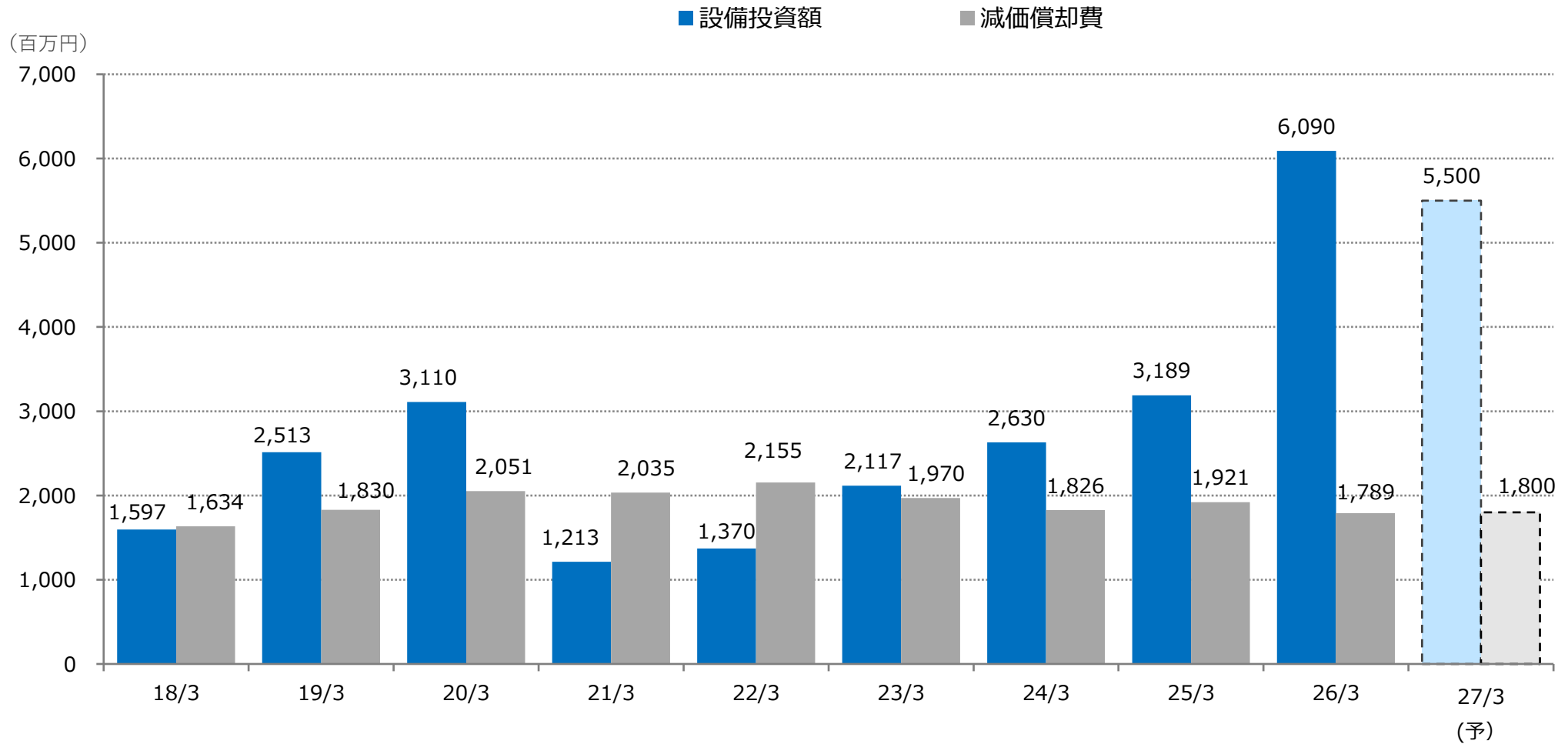
- 情報発信力（IR、広報、地域行事、ネーミングライツ）
- 地域のランドマークを目指した本社本館の建て替え
- 地域社会への貢献（地域参加&支援、ウェルビーイングな取組）
 - やすなが見守り配食：配食を通じて、地域に住む高齢者の方を見守っていく
 - 地域学校への人材派遣：安永社員が技術や考え方を伝え、ものづくり教育を育む

投資計画（3カ年の累計）

主力のエンジン部品生産設備への投資に加え、新事業の創造に向けた研究開発に資金を振り向ける
徹底した資金管理を行い、株主還元と内部留保にも充当



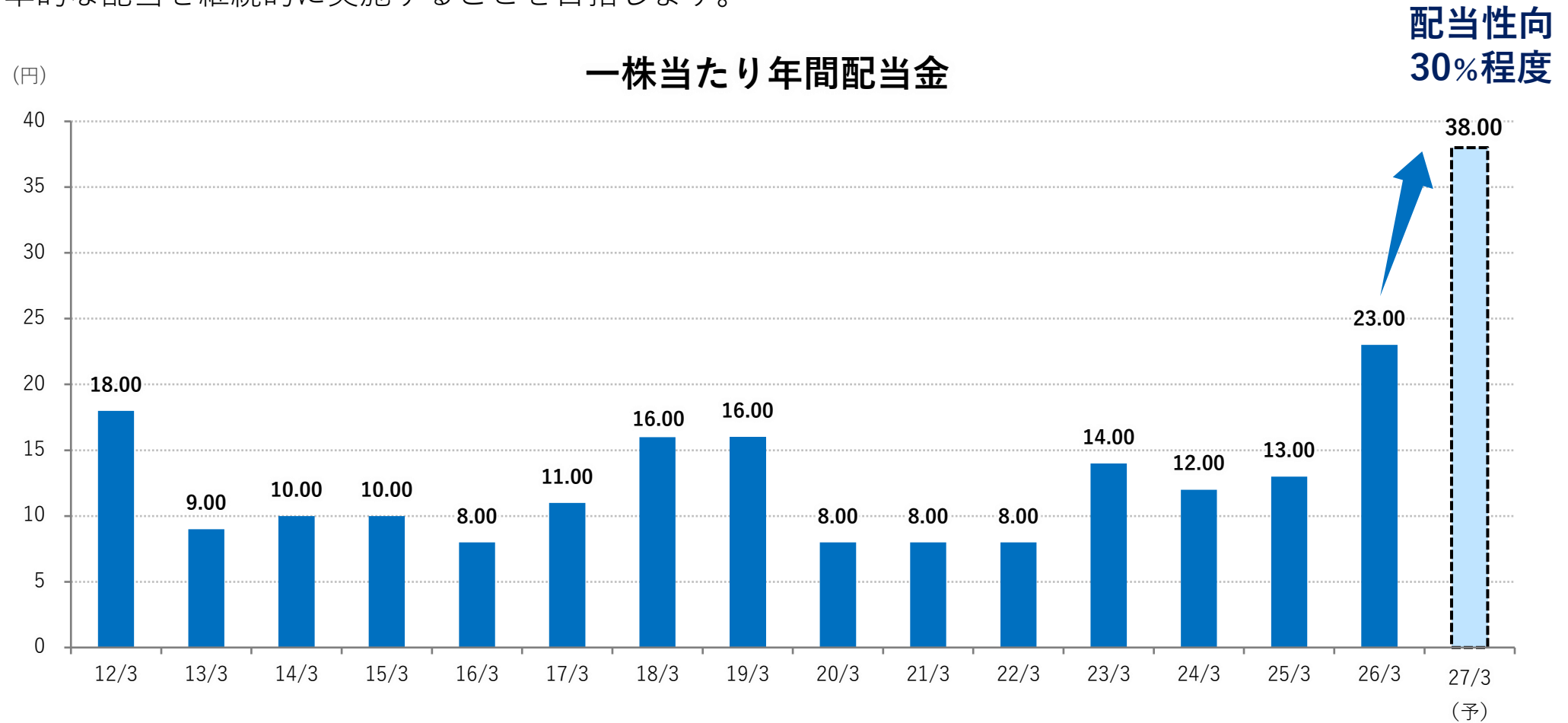
設備投資・減価償却費の推移



株主還元

株主還元の充実と経営基盤の安定を両立させるため、中長期的な視点から連結配当性向30%程度を目標とした還元を基本方針といたします。

単年度の利益変動に過度に左右されず、投資計画や財務状況を総合的に勘案した平準的な配当を継続的に実施することを目指します。





Appendix



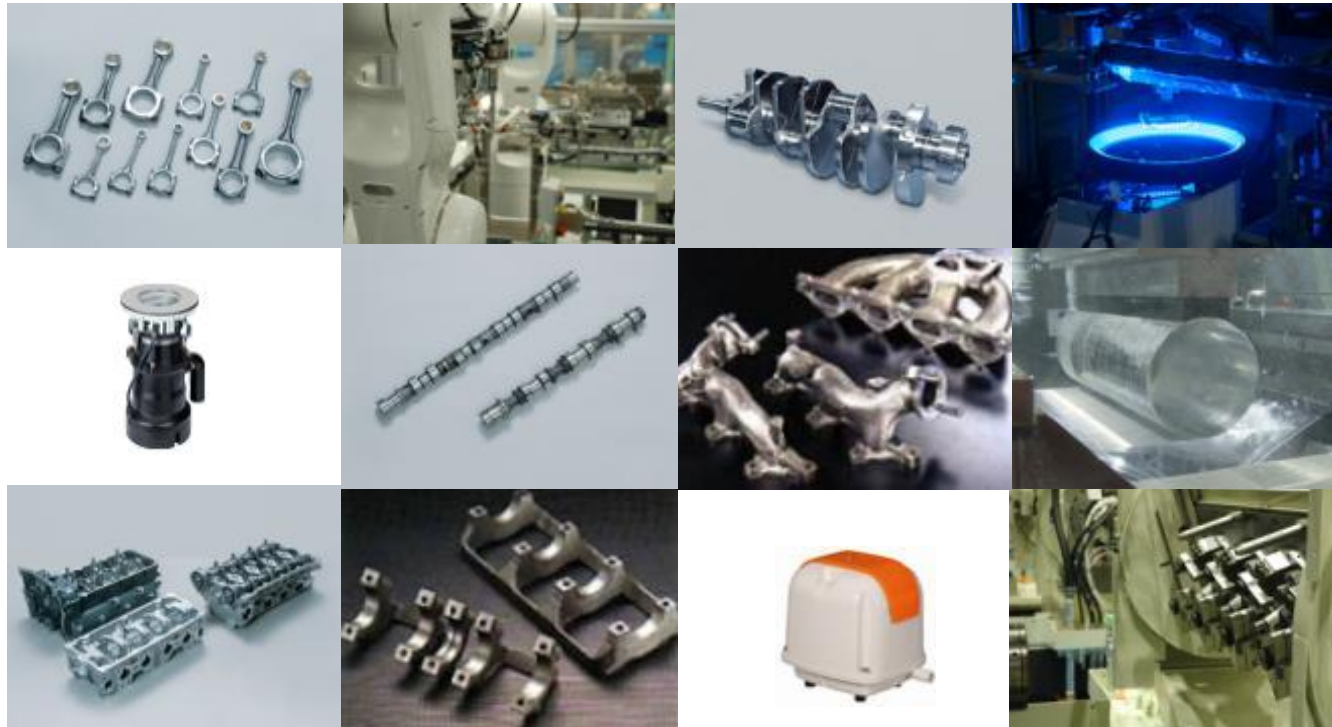
会社概要



商号	株式会社 安永 (YASUNAGA CORPORATION)
所在地	三重県伊賀市緑ヶ丘中町3860番地
創業	1923年6月
設立	1949年9月
資本金	2,142百万円
役員体制	代表取締役社長 安永 暁俊 常務取締役 堀江 泰三 取締役 一柳 功 監査等委員 (社外取締役) 小路 貴志 監査等委員 (社外取締役) 山本 卓 監査等委員 (社外取締役) 小坂 純文
社員数	560名 (連結1,706名)
事業内容	エンジン部品、電子機器部品及びその他の箔加工品の製造・販売 工作機械の製造・販売 ワイヤソー本体及びその加工用工具部品の製造・販売 検査測定装置の製造・販売
拠点	日本 (三重、東京)、インドネシア、タイ、メキシコ、中国、アメリカ

2026年3月31日現在

安永は時の課題を敏感に受け止め
独創的な技術により価値ある製品を提供し
社会文化の豊かさに貢献します



Fine Response

時の課題を敏感に受けとめ、ニーズにすばやく対応する安永

Fine Technology

常に時代の一步先を行く独創的な技術を開発する安永

Fine Products

産業界にとって人々にとって価値ある高品質な製品を提供する安永

Fine Communication

対話をもとに明るく親しまれる企業をめざす安永

Fine Culture

企業としてひとりの人間として社会文化の豊かさに貢献する安永

技術開発のあゆみ

創業以来「新しいものに挑戦する」企業風土が根付いており、独自技術を活かして新事業を創造

モノづくり企業としての
基盤確立

環境問題、高度情報化社会を
にらんだ多角化の加速

R&D体制を強化し
さらなる飛躍へ

1947

ミシンアームベッド

三重県鉄工工業組合員企業からの要望で製造を開始、安永のアームベッドを使うと生産性1.5倍に上がるとの評判で取引拡大



1972

エアーポンプ

環境ビジネスの市場拡大をにらみ環境事業への進出を決断、エアーポンプを製品化



1999

ディスポーザ

生ごみの搬送・収集・処理の負担軽減、高齢化社会に対応した衛生的で利便性の高い処理システムの実現を目指し製品化



2016

LiB電池製造に関する新技術開発

リチウムイオン電池の正極極板製造に独自の技術を導入し、リチウムイオンバッテリーの寿命を当社従来品比12倍以上に向上

1953

工作機械

総合的な技術力を養うため工作機械の内製に着手、「安永なら何でも作れる」との評価につながった



1987

検査測定装置

マイコンに関するソフト、ハードの自社開発力を確立、マイコン、センサの2要素技術を活かし製品化



2011

安永暁俊社長就任

R&D本部を新設し、既存事業以外の新事業創出のための研究開発を強力に推進

2024

電極活性化装置販売

リチウムイオン電池の電極表面に均一かつ高速に微細な孔を開けることでバッテリー性能を向上させる新しい技術を実現



1956

エンジン部品

機械加工、量産、設備製作の技術を活かし、エンジン部品の生産に着手、「コンロッドの安永」との認知が広がった



1975

ワイヤソー

多角化による一層の飛躍と経営基盤の強化を目的に生産を開始、アメリカ、イギリス、カナダ、スイス、ドイツ、フランスの6か国で特許出願



2002

クラッキング工法コンロッドライン立上げ

従来工法と比較し工程集約が可能となり生産性向上とコスト削減に貢献

2025

ペーパーチャンバー向けウィックの量産販売開始

独自開発した微細形状加工技術を用いて、情報化社会における電子機器の熱マネジメントに欠かせない製品の量産を開始

グローバルニッチNo.1

「安永にしかできないこと」にこだわり、ニッチな領域でトップシェアの製品を数多く抱える

部品

コンロッド

OEM供給コンロッド
生産実績数

No.1



全世界シェア 約5%

新技術・新商品開発

微細形状加工技術

超薄型高性能ウィック
LiB電極活性化装置

No.1

機械装置

工作機械

コンロッド加工
設備生産実績※1

国内 No.1

検査装置

検査測定装置
生産実績※2

国内 No.1

ワイヤソー

加工材料別
シェア※3

No.1

環境機器

エアープンプ

浄化槽用小型
エアープンプ
交換市場
販売数・省エネ

No.1

ディスポーザ

ディスポーザ
排水処理
総合システム
メーカー

国内 No.1

※当社調べ

※1 2軸加工機、FS加工機

※2 車載用半導体ICパッケージ外観検査、車載用イメージセンサー外観検査

※3 水晶（振動子、周波数フィルター）、ネオジウム/Nd（強力磁石、車のモーターなど）、酸化ガリウム/Ga2O3（次世代パワー半導体）、インジウム燐/InP（光通信素子、高周波素子）、ガリウムヒ素/GaAs（通信材料、LED赤外線素子など）

技術ポートフォリオ

既存技術の進化と新技術の探索で「安永にしかできないこと」を実現

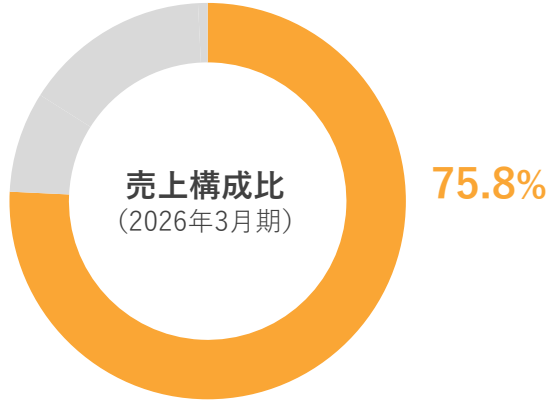


※1 自動車、電子半導体、次世代材料含む

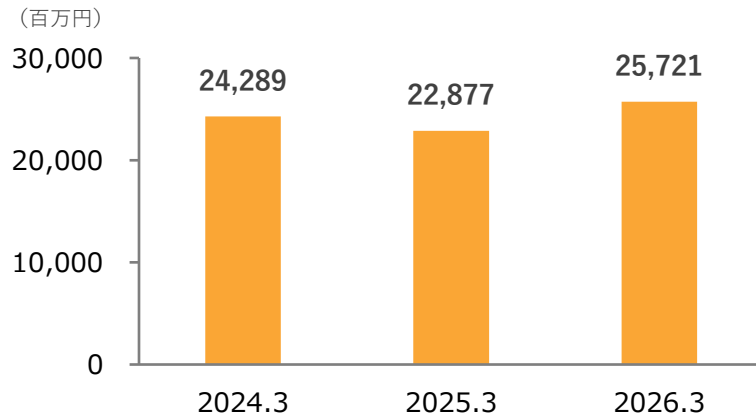
※2 大学・研究機関との共同研究含む

事業内容（部品）

自動車・産業機械向けエンジン部品の精密加工及び電子機器部品、その他の箔加工品の製造ならびに販売を行うとともに、提案型企业として顧客ニーズに応える製品を提供



売上高の推移



主要製品

グローバルニッチ No.1



コンロッド



シリンダーヘッド

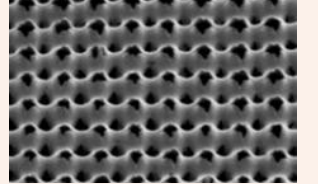


シリンダーブロック



カムシャフト

グローバルニッチ No.1



ウィックシート

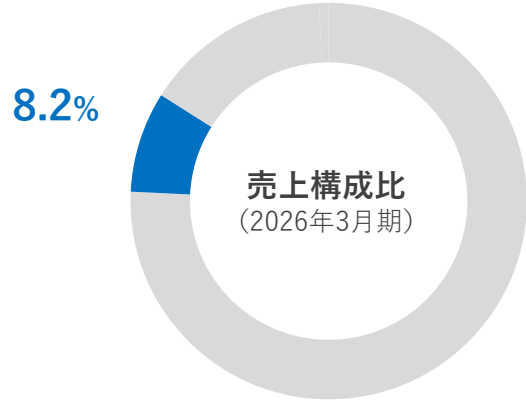
事業の特長

- **世界の自動車・産業機械メーカー他に試作品から、量産品～補給品まで対応**
メーカーニーズに応じて、製品設計、オーバーフロー、補給時のものづくりを柔軟に支援
- **多くのメーカーが内製している部品を外注加工、コンロッドを中心とした重要保安部品が主力**
ターンキーでの工程設備設計により、重要保安部品の精密加工と量産実績
- **多種多様な製品の量産で培ったノウハウにより、最適なものづくり提案が可能**
短納期での量産立上げ、生産技術開発による価格競争力、高品質な量産製造技術
- **独自開発した微細形状加工技術により、情報化社会における電子機器の熱マネジメントに貢献**

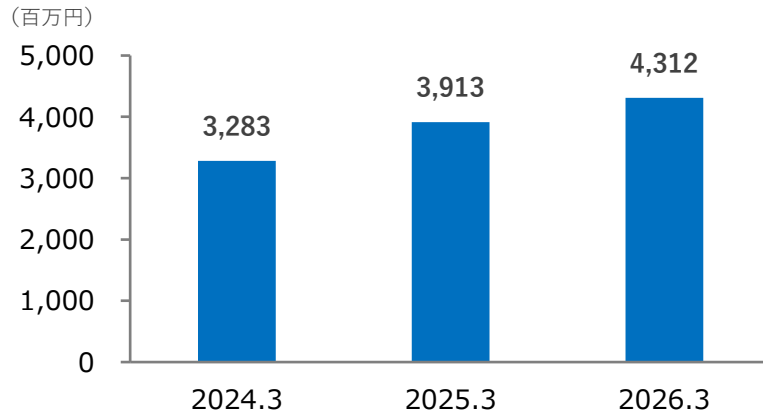
※2027年3月期第1四半期より、セグメント名称をエンジン部品から部品へ変更しております。

事業内容（機械装置）

切削、切断、研磨、組立、ハンドリング、センシングを組み合わせ、最適な生産設備を提案



売上高の推移



主要製品

グローバルニッチ No.1



コンロッド加工設備
(2軸加工機)



コンロッド加工設備
(FS加工機)



ワイヤソー



LiB電極活性化装置



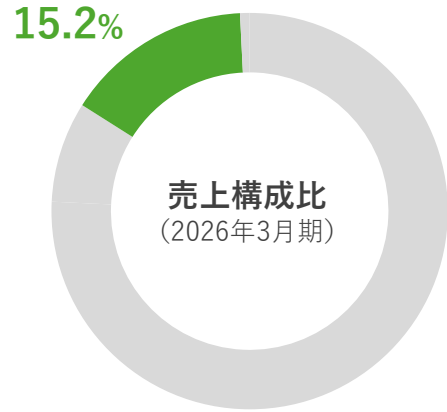
検査測定装置

事業の特長

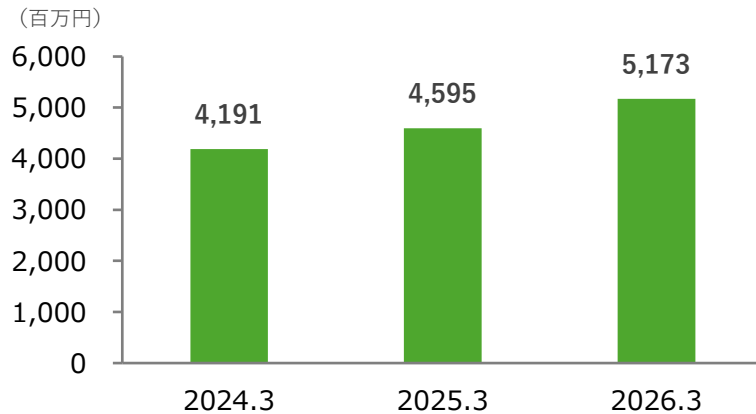
- 自動車・半導体・電子部品分野など多岐にわたる装置開発と納入実績**
 標準機からカスタマイズ機まで機械設計と製作が可能
 要素技術を組み合わせて様々なニーズに最適なソリューションを提案
- コンロッド加工設備の安永**
 国内外の自動車メーカーに対応、長年の納入実績、クラッキング技術の蓄積
- 応用分野が幅広いワイヤソーの提案**
 硬くて脆い材料を、より薄く精密に大量切断できる。次世代半導体、化合物、焼結材、水晶等の加工ノウハウを蓄積
- 電子部品、車載部品向け外観検査装置をラインナップ**
 要素技術を磨きあげ、半導体ICパッケージ外観検査装置は国内トップシェア、燃料電池車動力源向け外観検査ユニットでトヨタ技術開発賞受賞
- 微細形状加工技術を用いて、従来の電池製造における新しい製造工程を提案**
 リチウムイオン電池の電極表面に均一かつ高速に微細な孔を開け、バッテリー性能の向上を図る

事業内容（環境機器）

未来を豊かにする環境創造メーカーとして、長年培った技術と品質管理で高度な製品を実現

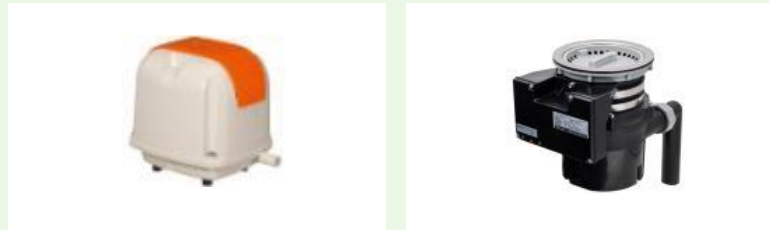


売上高の推移



主要製品

グローバルニッチ No.1



エアープンプ

ディスポーザ

事業の特長

- **水環境を改善するインフラ機器のトップメーカー**
エアープンプ、ディスポーザで幅広い顧客ニーズに対応、長年の納入実績
- **省エネ・低騒音のエアープンプを提案**
好気性微生物処理技術を活かした浄化槽用を柱に、医療用・産業分野用など汎用で幅広く使用される仕様と品質
- **低騒音・低振動で粉碎能力が高いディスポーザを提案**
国内で唯一、システム設置から維持管理まで一貫対応できる総合メーカー
低騒音・低振動と微粉碎設計で環境課題を解決できる仕様と品質

グローバルネットワーク

日本、アジア、北米に拠点をもち、地産地消で工場を展開

- A** **本社／本社工場**
三重県伊賀市
事業内容：部品
機械装置
- B** **ゆめぼりす工場**
三重県伊賀市
事業内容：部品
- C** **西明寺工場**
三重県伊賀市
事業内容：部品
- D** **名張工場**
三重県名張市
事業内容：部品
環境機器
- E** **キャスティング工場**
三重県伊賀市
- F** **安永東京センター**
東京都墨田区
事業内容：機械装置
環境機器



- 1** **P.T.YASUNAGA INDONESIA**
インドネシア セラン県
事業内容：部品
環境機器
- 2** **YASUNAGA (THAILAND) CO., LTD.**
タイ ラヨン県
事業内容：部品
- 3** **YASUNAGA MEXICO S.A. DE C.V.**
メキシコ ハリスコ州
事業内容：部品
- 4** **上海安永精密切削機有限公司**
中国 上海市
事業内容：機械装置
- 5** **Yasunaga Corp. America**
アメリカ ミシガン州
事業内容：部品
機械装置

お問い合わせ先

株式会社安永 経営企画部

住所 〒518-0834
三重県伊賀市緑ヶ丘中町3860番地

TEL 0595-24-2122

この資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。